

Information9

皆さん！愛犬・愛猫のシニアは何歳からだと思えますか？

実は、約7歳からシニア期と言われてます。

身体が小さい分人よりも年を取るのが何倍も早いのです。
今回は、シニア期（高齢）の注意点についてのお話です。

こんな変化はありませんか？

- ✓ 食事のスピードが遅い・量が減った
- ✓ 飲水量の変化
- ✓ 毛づやが悪い・パサパサ
- ✓ お散歩や階段の昇降を嫌がる・高い所に登らない
- ✓ 歩き方がノソノソゆっくり
- ✓ 粗相してしまう
- ✓ 鳴き声大きい・夜鳴き
- ✓ クルクルと徘徊
- ✓ 口臭
- ✓ 爪が分厚い



このようなチェックリストで当てはまると高齢になり

腎臓、甲状腺、変形性関節症(OA)、歯周病、認知症 etc…

様々な病気が考えられます！！

この中の変形性関節症についてさらに詳しくお話していきます。



変形性関節症(OA)は、関節の軟骨が傷ついたり・変形をすること

障害が起こり、進行・悪化により痛みで動きにくくなったりします。

動かなくなると筋肉が痩せていき今まで以上に動きが鈍くなっていきます。

老齢や肥満、なりやすい種などありますが、

そうなる前に適切な治療で進行悪化を遅らせ痛みを和らげることもできます。

<痛みのサイン>



- ◇ 寝起きに起き上がれない
- ◇ 昇降（車や階段・ベットの）を嫌がる
- ◇ 動きがゆっくり
- ◇ ジャンプで乗る前にためらう
- ◇ 脚や身体を触られるのを嫌がる
- ◇ たまにびっこを引く
- ◇ 歩きたがらない
- ◇ 性格の変化



動物たちは痛みを“隠す”習性があります。

なので痛みのサインを私たちが気づいてあげることが重要です！

<治療法>

病院

1. 関節を強くする注射
2. 1カ月効く鎮痛剤の注射
3. 消炎鎮痛剤の内服
4. サプリメント
5. 光治療

自宅ケア

1. 体重管理
肥満は関節に負担がかかる
2. 適度な運動
関節の可動域を広げるため
無理ない所で運動し、
筋肉を落とさないことが重要！



シニアの子たちでもまだできることはたくさんあります！

『高齢だから仕方がない』ではなく『何かしてあげよう！』に

思考チェンジ！

病院なので何か力になれます。

シニア期も長いので飼い主様の負担も考え

やれる治療を一緒に探しましょう！！

